



柔道部

■ 1902年(明治35年)公認

部員数

40名



部長
射手矢 岬
スポーツ科学術院
教授

2025年は男子7名、女子3名の新生を迎え総勢40名で日々の稽古に励んでおります。6月の全日本学生柔道優勝大会では男子ベスト16、女子32、10月の全日本学生団体別団体では男女ともにベスト16でした。また個人戦では全日本ジュニア体重大別選手権大会で2年生木村優花が準優勝、講道館杯全日本体重大別選手権大会で4年生笠井雄太が3位となり、全日本強化選手に選ばれました。本年度も早稲田アスリートプログラムやボランティアの活動に積極的に取り組み、チームスタッフの協力を得ながら文武両道を目指します。日頃から部の運営を支えてくださる競技スポーツセンター、OB・OGの皆様には心より感謝し、さらなる躍進を目指し、努力・精進いたします。



監督
呉 世鎮

部員が少なく、限られたメンバーで工夫をしながら毎日稽古に励んで参りました。4年生が中心となりチームをまとめ上げ、全国の強豪に挑戦して参りました。昨年の成績を上回ることを目標にしていますが、残念ながら達成は叶いませんでした。しかし個人としては、非常に優れた成績を残すこともでき、各選手が活躍を示すことができた1年かと思えます。早稲田の活躍を聞いて喜んでくれる方々も多くいます。今後よりよい成績を残せるよう稽古に励んで参ります。



女子監督
西田 清二

2025年度は、インカレ団体5人入賞、個人では、学生日本一を目指し、各々が目標を立て取り組みました。個人戦では、全日本ジュニア体重大別選手権において準優勝する選手が出るなど躍進したものの、団体戦の成績では目標を達成することができませんでした。しかしながら、チーム・個々として、強くなるため、成長するために考え取り組んだ努力やその過程は、部員たちの成長に大きく寄与したと確信しております。次年度は本年の経験を糧とし、団体・個人ともに飛躍できるよう、愚直に取り組みます。柔道部での活動を通して人間力・競技力の成長を目標に掲げ、多くの方に感動を提供し、応援されるよう取り組みで参ります。



主将
笠井雄太
スポーツ科学部
桜丘

早稲田大学で柔道ができたこと、とても誇らしく、またとても楽しい学生生活だったと実感しております。入学当初は結果が振るわず、苦しい時期が続きましたが、背中を押してくれる後輩達や、頼もしい同期に恵まれて、ここまで続けることができました。また、学年だけでなく指導者やOBの方々の支えも大きかったと感じています。この4年間を通して得た経験は、何物にも代え難い財産となりました。主将として団体目標の達成は叶いませんでしたが、これからも周りに支えてもらっていることを忘れず、社会で活躍します。支えてくださった皆様、本当にありがとうございます。



女子主将
大森恵花
スポーツ科学部
渋谷教育学園渋谷

柔道を通して、たくさんの方を学び、貴重な経験をさせてもらいました。早稲田に入り、さまざまな背景を持つ人たちと出会い、柔道の面白さや奥深さを教えていただいたことで、自分の視野が大きく広がりました。柔道は、自分が思っていたよりも何千倍も奥が深く、いまだにその魅力を知り尽くしていません。大学4年次には主将を任せていただきました。右も左もわからない私に、後輩たちは嫌な顔ひとつせずついてきてくれ、本当に感謝しています。みんなで7人制団体の出場権を勝ち取り、一緒に作戦を練り、チームのために戦えたことは、一生の宝物です。この4年間、何となく柔道をさせてもらったことに感謝しています。わせたであしあわせだ



主務
榎原和佳
スポーツ科学部
日立第一

本年度、柔道部男子主務を務めさせていただきました。榎原和佳です。私は高校時代まで柔道という競技に全く触れたことがなく、入学当初は大きな不安を抱えていました。しかし、先輩方や監督の皆さんが温かく迎えてくださり、4年間無事に部活動をやり遂げることができました。本当にありがとうございます。早稲田大学体育会柔道部での経験を通じて、多くのことを学ばせていただきました。ここで得た学びを胸に、社会に出てからも「人のために」力を尽くしてまいります。そして、いつかお世話になった皆さんに恩返しができるよう、精一杯努力いたします。今後とも、早稲田大学柔道部をどうぞよろしくお願い申し上げます。



女子主務
柳橋りな
スポーツ科学部
松商学園

昨年度に引き続き、僱趣ながら女子部主務を務めさせていただきました。大森主将、高橋副将をはじめ、学年の垣根を超えて互いに励ましあい、切磋琢磨できる仲間たちに支えられながら、今年一年も無事に走り続けることができました。日々の練習や試合を通して、喜びや悔しさを分かち合える仲間に出会ったことを、心から嬉しく、そして誇りに思います。先輩ながら、日頃から温かいご支援とご指導を賜り増した監督、コーチ、OB・OGの皆様、そして常に温かく見守ってくださった保護者の皆様、心より感謝申し上げます。今後とも早稲田大学体育会及び、柔道部への変わらぬご声援どうぞよろしくお願い申し上げます。



本年度試合戦績

成績(早稲田勝利:○、引き分け△、敗戦●)

(男子)

◇東京都学生柔道優勝大会 (5月25日)
5位

- ▷青山学院大学(6-0)
- ▷専修大学(1(代表戦勝ち)-1)
- ▷明治大学(0-5)

優秀選手

- ▷笠井雄太/スポ科/4年

◇全日本学生柔道優勝大会 (6月28日~29日)

- ベスト16
- ▷国際武道大学(2-4)
- ▷山梨学院(1-1(代表戦負け))

◇東京学生柔道体重大別選手権大会 (8月31日)

- ベスト16
- ▷山藤光星/スポ科/2年
- ▷橋本虎弥/社学/4年
- ▷中島竜生/文構/4年
- ▷高本桂輔/社学/1年

ベスト8

- 長澤篤希/スポ科/4年

優勝

- 笠井雄太/スポ科/4年

◇全日本学生柔道体重大別選手権大会 (9月27日~28日)

- 出場
- ▷高本桂輔/社学/1年
- ▷山藤光星/スポ科/2年
- ▷橋本虎弥/社学/4年

ベスト16

- ▷笠井雄太/スポ科/4年
- ベスト8
- ▷長澤篤希/スポ科/4年
- ▷中島竜生/文構/4年

◇全日本学生柔道体重大別団体優勝大会 (10月18日~19日)

- ベスト16
- ▷富士大学(4-1)
- ▷日本理科大学(3-2)
- ▷桐蔭横浜大学(1-2)

◇講道館杯全日本柔道体重大別選手権大会 (11月2日)

- 出場
- ▷長澤篤希/スポ科/4年
- ▷中島竜生/文構/4年

3位

- ▷笠井雄太/スポ科/4年

◇第77回早慶対抗柔道戦 (11月22日)

優勝

- ▷8人残し

(女子)

◇第40回皇后盃全日本女子柔道選手権大会 (4月20日)

無差別級

- ▷大森恵花 二回戦敗退

◇2025年度全日本学生柔道優勝大会(女子34回) (6月28日)

団体

▷二回戦敗退

◇令和7年度東京ジュニア柔道体重大別選手権大会 (7月6日)

- 52kg級
- ▷鈴木ひらり1年 スポーツ科学部 第3位
- ▷植山晴花2年 スポーツ科学部 第3位

48kg級

- ▷高木由有3年 スポーツ科学部 第3位

63kg級

- ▷木村優花2年 スポーツ科学部 優勝

◇2025年度東京学生柔道体重大別選手権大会 (男子44回 女子41回) (8月31日)

48kg級

- ▷高木由有2年 スポーツ科学部 ベスト8

63kg級

- ▷姥琳子3年 スポーツ科学部 第3位

78kg級

- ▷大森恵花4年 スポーツ科学部 準優勝

◇2025年度全日本ジュニア柔道体重大別選手権大会 (9月13日)

63kg級

- ▷木村優花2年 スポーツ科学部 準優勝

◇2025年度全日本学生柔道体重大別選手権大会 (9月27日~28日)

63kg級

- ▷姥琳子3年 スポーツ科学部 ベスト16

78kg級

- ▷大森恵花4年 スポーツ科学部 ベスト16

◇男子27回女子17回全日本学生柔道体重大別団体優勝大会 (10月18日~19日)

団体

- ▷ベスト16

◇2025年度講道館杯全日本柔道体重大別選手権大会 (11月1日~2日)

63kg級

- ▷木村優花2年 スポーツ科学部 ベスト16

78kg級

- ▷大森恵花4年 スポーツ科学部

